

— 神経 —

## 髄膜炎 1 (概論)

暗記用テキスト



# テキストご利用ガイド

## A. テキストの構成

### ①ポイント解説部

- ・テーマの重要知識を網羅したパート。医療系国家試験の重要知識を1ページに凝縮しています。オレンジにて強調された Keyword は、国家試験の問題を解く際に特に重要となる知識です。
- ・Keyword 左上には Keyword No. が割り当てられ、「②チェックアップ〈Checkup〉」と対応します。
- ・さらに、Keyword No. に紐付けられたプライオリティタグ〈Priority tag〉は重要度を示します。  
(→「D. テキスト記法」)

### ②チェックアップ〈Checkup〉

- ・ポイント解説部の Keyword と一対一対応になった、一問一答形式の問題集パート。"Checkup"は「健康診断、総点検」を意味し、文字通りすべての Keyword を確認できます。
- ・ポイント解説部では、しばしば前後の文脈・書き込みが Keyword を予測するヒントとなります。一問一答形式は、これらヒントを介入させない高負荷アウトプット〈Heavy output〉を実現します。
- ・各設問には Check Box を付しました。誤答時チェック方式によって周回すれば、覚えられない Keyword に多くのチェックが付くため弱点が定量化されます。チェックの多い設問のみを復習に充てることにより、圧倒的に効率の良い復習となるでしょう。  
(間違えた際にチェックを付ける)

### ③問題演習

- ・医療系国家試験にて実際に出題された過去問から、演習効果の高い良問を厳選しました。
- ・講義動画視聴の際は、講師の解説が始まる前に一旦動画を停止し、自力で解いてみましょう。

### ④基準値一覧

- ・記憶すべき基準値を一覧にしています。無秩序な数字の羅列を正確に記憶することは至難の技。繰り返し何度も何度も見返すことによって、アタマに数値を刻み込みましょう。

## B. テキストの種類

- ・目的の用途に機能を特化させた、授業用、記入用、暗記用の3種のテキストをご用意しています。
- ・テキストごとにポイント解説部の仕様がわずかに異なります。その他の内容・構成は同じです。各自の好みや利用目的に応じて使い分けてください。

### ①授業用テキスト

- ・ベーシックなテキスト。Keyword 部分は既に記入された状態です。
- ・講義動画視聴の際は、本テキストまたは「②記入用テキスト」のいずれかをお使いください。

### ②記入用テキスト

- ・穴埋め書き込み形式のアウトプットに特化したテキスト。Keyword 部分が空欄になっています。
- ・「講義動画を視聴しつつ、本テキストの空欄を埋めていく」といった受講スタイルも効果的です。Keyword を目で見ても(≡インプット)書き込む(≡アウトプット)作業が加わるためです。

### ③暗記用テキスト

- ・赤シート併用形式のアウトプットに特化したテキスト。「①授業用テキスト」と比べて Keyword の色が薄いため、赤シートを併用した際により消えやすくなっています。
- ・本テキストにはポイント解説部の Keyword 自体にも Check Box を付しました。

## C. 学習の流れ

- ・3つの段階からなる効果的な学習方法を以下に示しました。むろん、以下は一例に過ぎません。最適な学習方法には個人差があります。適宜カスタマイズし、自身の最適解に近づけてください。

### ①インプット期〈Input phase〉

- ・予習は必要ありません。まずは講義動画を視聴し、ポイント解説部の理解に努めます。その際、板書や講師の発言を適宜書き込んでいきましょう。復習時に理解の助けとなるはずです。
- ・初めから枝葉末節まで理解するのは困難です。大まかな全体像の把握を優先してください。

### ②低負荷アウトプット期〈Light output phase〉

- ・記入用テキスト（穴埋め）や暗記用テキスト（赤シート併用）によるアウトプットに移行します。  
Keyword 前後の文脈・書き込み等をヒントにしながらアウトプットに取り組みましょう。  
（または授業用テキスト）

### ③高負荷アウトプット期〈Heavy output phase〉

- ・チェックアップ〈Checkup〉によるアウトプットに移行します。ここでは一問一答形式により、Keyword 前後の文脈・書き込み等のヒントを介入させずにアウトプットに取り組みましょう。
- ※②と③における下線部の差異を明確に意識して取り組むと効果的です。

## D. テキスト記法

### ①プライオリティタグ〈Priority tag〉

- ・Keyword にはプライオリティタグ〈Priority tag〉を紐付け、重要度の指標としました。

黒タグ	<b>1</b>	最重要	テーマの理解に必須の知識 複数の医療系国家試験にて問われやすい
白タグ	<b>2</b>	重要	テーマの理解を深める知識 一部の医療系国家試験にて問われやすい

### ②括弧類

- ・括弧類は以下のルールに基づいて使用します（医師国家試験ガイドライン表記に一部準拠）。

< >	直前の語の同義語・略語	e.g. 世界保健機関〈WHO〉
( )	直前の語の説明・限定	e.g. 外耳（耳介、外耳道、鼓膜）
{ }	省略しても意味が同じ語	e.g. タンパク {質}
[ ]	同一括弧類の入れ子表記	e.g. 薬剤耐性〈antimicrobial resistance [AMR]〉

### ③略語

- ・テキストおよび講義内にて使用頻度の高い略語を以下にまとめました。

cf.	confer	～を参照せよ	CC	chief complaint	主訴
e.g.	exempli gratia	例えば～	n.p.	nothing particular	異常なし (特記事項なし)
i.e.	id est	すなわち～	f/u	follow up	経過観察
Dr	doctor	医師	s/o	suspect of	～の疑い
Ph	pharmacist	薬剤師	r/o	rule out	～を除外
Ns	nurse	看護師	d/d	differential diagnosis	鑑別診断
A, V, N	artery, vein, nerve	動/静脈, 神経	Sx.	syndrome	～症候群

# 髄膜炎 1 (概論)

----- 【Point!】 -----

**髄膜炎の病態・症候・検査・分類**

- ① 髄膜に炎症が生じる病態。症候として発熱や髄膜刺激症状がみられる。
- ② 検査として腰椎穿刺による **髄液** 検査が有用（脳圧亢進時には△禁忌△）。

髄膜炎の分類・髄液所見

	細菌性	ウイルス性	結核性	真菌性	癌性
初 圧	↑↑	↑			
蛋 白	↑↑	↑			
細胞数	↑↑↑	↑↑			↑
細胞種	<sup>2</sup> ■■■■■ 多形核球	<sup>3</sup> ■■■■■ 単核球			様々
糖	↓	<sup>4</sup> ■■■■■ →	↓		

※髄液中の糖は血糖値との比較により評価する。

**髄膜刺激症状**

- ③ 髄膜の炎症により出現する症状。髄膜炎のほか、くも膜下出血やヘルペス脳炎などでもみられる。

髄膜刺激症状の種類・内容

自覚症状	頭痛、悪心、嘔吐、羞明など。
<sup>5</sup> ■■■■■ 項部 硬直	仰臥位で頸部を前屈させると抵抗を感じる。
<sup>6</sup> ■■■■■ Kernig 徴候 ケルニッツ	仰臥位で股関節を屈曲位にして膝関節を他動的に伸展すると抵抗があり伸展できない。
<sup>7</sup> ■■■■■ Brudzinski 徴候 ブルジンスキー	仰臥位で頸部を前屈させると股関節と膝関節が屈曲する。
neck flexion test	座位または仰臥位で頭部を前屈させると抵抗があり下顎が胸部につかない。
jolt accentuation	頭部を水平に振ることで頭痛が増悪する。

チェックアップ 〈Checkup〉

Keyword No.	Question	Check Box
<b>髄膜炎の病態・症候・検査・分類</b>		
<b>1</b>	髄膜炎の診断に有用な検査は何か。	□□□□□
<b>2</b>	細菌性髄膜炎の髄液中に増加する細胞種は何か。	□□□□□
<b>3</b>	ウイルス性、結核性および真菌性髄膜炎の髄液中に増加する細胞種は何か。	□□□□□
<b>4</b>	ウイルス性髄膜炎の髄液中の糖はどのように変化するか。	□□□□□
<b>髄膜刺激症状</b>		
<b>5</b>	髄膜刺激症状のうち、仰臥位で頸部を前屈させると抵抗を感じる症状を何と呼ぶか。	□□□□□
<b>6</b>	髄膜刺激症状のうち、仰臥位で股関節を屈曲位にして膝関節を他動的に伸展すると抵抗があり伸展できない症状を何と呼ぶか。	□□□□□
<b>7</b>	髄膜刺激症状のうち、仰臥位で頸部を前屈させると股関節と膝関節が屈曲する症状を何と呼ぶか。	□□□□□

問題演習

【Dr】〈107124〉

未治療の結核性髄膜炎患者の脳脊髄液所見として当てはまるのはどれか。  
ただし、血糖値は98mg/dLである。

	糖 (mg/dL)	蛋白 (mg/dL)	細胞数 (/mm <sup>3</sup> )	単核球数 (/mm <sup>3</sup> )
基準	50~75	15~45	0~2	0~2
a	4	380	3,580	325
b	10	284	680	510
c	58	68	86	86
d	62	98	238	215
e	68	34	2	2

## 【Dr】〈104E44〉

2歳6か月の男児。発熱と不機嫌とを主訴に来院した。一昨日から不機嫌で、39°C台の発熱を認める。身長90cm、体重12.2kg。体温38.8°C。呼吸数36/分。脈拍120/分、整。血圧106/68mmHg。意識は傾眠状態。顔色不良で顔貌は無欲状である。咽頭発赤を認めるが、鼓膜の発赤はない。仰臥位で頸部を前屈させると抵抗を感じる。股関節を屈曲位にして膝関節を他動的に伸展すると抵抗があり伸展できない。

この患児でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a Babinski 徴候      b Kernig 徴候      c Romberg 徴候      d 項部硬直  
e 後弓反張

【Ns】〈109AM46〉

細菌性髄膜炎の症状はどれか。

1. 羞明
2. 羽ばたき振戦
3. Raynaud 〈レイノー〉現象
4. Blumberg 〈ブルンベルグ〉徴候



基準値一覧

血液学検査		生化学検査	
赤沈	2 ~ 15 mm/1 時間	総蛋白	6.5~8.0 g/dL
赤血球	380 ~ 530 万	アルブミン	67 %
Hb	12 ~ 18 g/dL	$\alpha_1$ -グロブリン	2 %
Ht	36 ~ 48 %	$\alpha_2$ -グロブリン	7 %
MCV	80 ~ 100 fL	$\beta$ -グロブリン	9 %
網赤血球 (割合)	0.2 ~ 2.0 %	$\gamma$ -グロブリン	15 %
網赤血球 (絶対数)	5 ~ 10 万	アルブミン	4.0 ~ 5.0 g/dL
白血球	4,000 ~ 9,000	総ビリルビン	1.2 mg/dL 以下
桿状核好中球	2 ~ 10 %	直接ビリルビン	0.4 mg/dL 以下
分葉核好中球	40 ~ 60 %	間接ビリルビン	0.8 mg/dL 以下
好酸球	1 ~ 7 %	AST	10 ~ 40 U/L
好塩基球	0 ~ 1 %	ALT	5 ~ 40 U/L
単球	2 ~ 8 %	尿素窒素	8 ~ 20 mg/dL
リンパ球	25 ~ 45 %	クレアチニン	0.5 ~ 1.1 mg/dL
血小板	15 ~ 40 万	尿酸	2.5 ~ 7.0 mg/dL
免疫血清学検査		空腹時血糖	70 ~ 110 mg/dL
CRP	0.3 mg/dL 以下	HbA1c	4.6 ~ 6.2 %
動脈血ガス分析		総コレステロール	150 ~ 220 mg/dL
pH	7.35 ~ 7.45	トリグリセリド	50 ~ 150 mg/dL
PaO <sub>2</sub>	80 ~ 100 Torr	LDL コレステロール	60 ~ 139 mg/dL
PaCO <sub>2</sub>	35 ~ 45 Torr	HDL コレステロール	40 mg/dL 以上
HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	22 ~ 26 mEq/L	Na	136 ~ 145 mEq/L
		K	3.6 ~ 4.8 mEq/L
		Cl	98 ~ 108 mEq/L
		Ca	8.5 ~ 10.0 mg/dL
		P	2.5 ~ 4.5 mg/dL
		Fe	60 ~ 160 $\mu$ g/dL